

## 企画展 未来のしごと

これからの仕事方を模索するためのキーワードとして、「協働」のあり方に着目し、今回の企画展ではデザイナー、伝統工芸、地域コミュニティとの協働事例を紹介します。

### 『TOMORROW IS TODAY』(Good Job!プロジェクト×原田祐馬+吉行良平)

Good Job! プロジェクトの取り組み。デザイナーとの協働事例として企画展に出展します。



<http://to-is-to.tumblr.com/>

デザイナーと Good Job!プロジェクトによる取り組み。障害のある人が、吉野材に和紙を貼り付け装飾を施し、ブックエンドなどのプロダクトを制作。使用する和紙の色や形には一定のルールがあるが、制約のなかにも多様な表現の幅があり、創作の自由がある。

### 「ありがとうファーム」株式会社ありがとうファーム

障害のある人の居場所づくり、地域に開かれた場づくりの事例として企画展への出展を依頼しました。



<http://www.arigatou-farm.com/>

岡山市の商店街のなかにある、株式会社ありがとうファームが運営。障害のある方が楽しく暮らし、一般就労に結びつく環境をめざしている。就労継続支援 A 型事業により、地域に根付いた囲碁・将棋クラブや、カフェ、食堂、テレワーク、ゴスペルなど、多様な仕事づくりを行っている。

## 「RAKUZEN」(合同会社楽膳)

伝統工芸との協働事例として企画展への出展を依頼しました。



<http://www.raku-zen.net/>

福島県の会津塗の伝統工芸士、障がい者支援を行う NPO 法人シャローム、デザイナーが協働で制作する食器シリーズ。持ちやすいお椀「楽膳椀」は、底部のカット部分に指をかけて持つデザインで、握力の弱い人や濡れた手でも、自然な仕草で安定して持てるよう設計されている。

## 『日本漆総合研究所』一般社団法人日本漆総合研究所

伝統工芸の担い手として障害者への技能伝承に注力している点に着目し企画展への出展を依頼しました。



<http://ulushi-hachiya.jimdo.com/>

御神輿の修復を通して、障害のある人を対象に漆工芸の技能伝承を行うほか、障害のある人の仕事として宮城県石巻市の建材に使用される雄勝石を使った釜神様(東北地方一部の地域に古くから伝わる怒り顔の面)や、地元の木材を使った積み木づくりなどに取り組んでいる。

## 『NPO 法人スウィング』

障害のある人の居場所づくり、地域に開かれた場づくりの事例として企画展への出展を依頼しました。



<http://www.swing-npo.com/>

“美しい京都をより美しく”を合言葉に、ゴミコロレンジャーに扮したりしながら行う清掃活動「ゴミコロリ」。ワークショップ、スポーツ、寸劇上演などを通じてさまざまな子どもたちと交流する「コドモとアソブ」(写真)。「京都人力交通案内『アナタの行き先、教えます。』」など、遊ぶこととはたらくことを両立させる新しい仕事観を提案する。

## Good Job! Award 入選展（順不同）

Good Job! Award に入選した12件の取り組みを紹介します。

### 「Rubodan」(SIMPLE PAPER MADE Network)

デザイン性と同時に、製法をシェアするというアイデアが評価されました。



<http://www.rubodan.com/>

ダンボールを簡単に1枚ずつに分けるSIMPLE PAPER MADE製法により、ノートやレターセットなどを製造・販売。沖縄を中心に国内外でワークショップや障害のある人との商品開発・製造委託、SNSやYouTubeを通してアイデアをシェアするなどの普及活動も行っている。

### 「森のキッチン」(社会福祉法人コスモス)

産官学民連携による場所づくりの取り組みとして際立っていた点が評価されました。

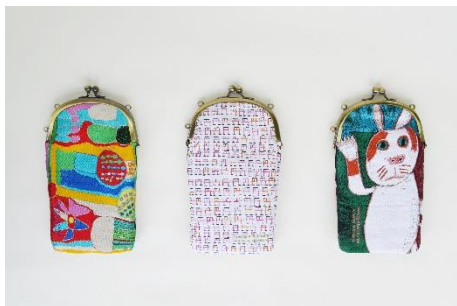


<https://www.facebook.com/sakaicosmos.morinokitchen>

2015年2月、大阪府堺市役所にオープンした、社会福祉法人コスモスが運営する食堂カフェ。スタッフの半数が障害のある人で、店内には堺市内の授産商品を展示販売。食堂を舞台に、多様な産官学民が集まり、さまざまな社会課題についての対話ができる場をめざしている。

### 「長いがま口」(NPO 法人スウィング×中梅織物株式会社)

伝統工芸との協働事例として、その商品企画力と、従来の福祉製品を越えていこうという意気込みが感じられた点が評価されました。



<http://www.swing-npo.com/>

京都のNPO 法人スウィングと、西陣織の老舗・中梅織物の出会いをきっかけに生まれたプロダクト。もともと施設に下請作業を委託していた会社がパッケージを製造、施設商品の委託販売先であった雑貨屋が縫製をするなど、これまでの関係性を越えた協働が生まれている。

### 「KOPPA」(特定非営利活動法人ワークサポートひかり)

モノから生まれるコミュニケーションに対する視点と、仕組みづくりとして今後の発展性が期待される点が評価されました。



<http://hikarilabo.com/>

特定非営利活動法人ワークサポートひかりは、精神障害者の家族会から始まり、利用者の声をきっかけに木工作業を開始。職人化してきた利用者の工賃向上をめざし、商品の展開を実施。販売のほかに、ワークショップなどを通して生まれるコミュニケーションを大事にしている。

## 『ドニさんの家』 ドニさんの家×社会福祉法人オリーブの会

福祉の外側からの多様なはたらき方に対するアプローチとして、着眼点の新規性が感じられた点が評価されました。



<http://donihouse.com/>

精神に障害を持つ人が作業する農園の一角に、福祉という枠組みの中にいない「ドニさん」が空き家を借りて暮らすという試み。フリースペースとして、食やカラダを見つめ直すようなワークショップを開催し、多様な生き方やはたらき方を模索する場をつくっている。

## 「ふく福たまご」(ふくふくファーム×アカオニデザイン)

デザイナーとの協働事例として、パッケージデザインのクオリティが優れていた点が評価されました。



特定非営利活動法人障害者の地域生活を支援する会が運営する山形市内にある養鶏場、ふくふくファーム。使われなくなった農地を再利用し、障害者のはたらく場づくりを行っている。パッケージはアカオニデザインが制作、障害のある人が押しやすいようデザインされたハンコを押して完成する。

## 「つばめキャンドル」(燕市社会福祉協議会就労支援センター×企画製作室 Bridge)

デザイン性と同時に、製造工程に工夫がみられた点が評価されました。



<http://tsubamecandle.jimdo.com>

結婚式場で使用されたキャンドルを再成形。キャンドルチップを積み重ねてつくる製法は障害のある人が楽しく、バリエーションも広がる工夫があり、ワークショップにも活用されています。「おにキャン」「つのキャン」などの商品ラインナップがある。

## 「琉Q / ルキュー」(KIGI×一般財団法人沖縄セルプセンター)

福祉製品を買ってください、というスタンスではなく、沖縄という地域性に関連づけた総合的な編集・情報デザインが優れていた点が評価されました。



<http://ruq.jp/>

一般財団法人沖縄セルプセンターを介し、障害のある人たちと調味料や香辛料を製品化。ホームページでは沖縄にまつわる質問(=Q)とその返答が掲載され、福祉製品との出会いが琉球への興味・質問(=琉Q)から紡ぎだされる物語として編集・デザインされている。



## 『カガワ 3D プリンタ fun こみゆ』

国内の福祉事業所で最初期に 3D プリンターを導入した先進的な事例として選出されました。



<https://www.facebook.com/kva.sonoken/>

2013 年、社会福祉法人香川ボランティア協会が運営する生活支援センターサンサンへの 3D プリンタ導入を機に設立されたコミュニティ。障害のある人とともに体験講座やワークショップ、身の周りの不便改善のためのデザイン制作などを展開。その後、法人から独立。

## 『株式会社ふくしごと』

異分野の協働により、新しい事業体を構築した点が評価されました。

株式会社

ふくしごと

<http://fukushigoto.co.jp/>

建築やデザインを行う株式会社ダイスプロジェクト、障害福祉サービス事業所の工房まる、ウェブデザイナーなど有志により 2015 年 2 月に設立。商品企画から、製造・販売、著作権管理、イベントの企画・運営まで、障害者が関わるデザイン業務全般を請け負っている。



## 「よしすけアートカードゲーム」

(木原共+慶應義塾大学 SFC 水野大二郎研究会×よし介工芸館)

ビジネスモデルの提案として。また、数少ない学生の応募取り組みとして伸びしろに期待がかけられ、選出されました。



<http://iamkiharabef8.prosite.com/366729/7774846/works/yoshisuke-art-card-game>

藤沢育成会よし介工芸館と木原共+慶應義塾大学 SFC 水野大二郎研究会の協働によるカードゲーム。各自の解釈から障害のあるアーティストの作品を他者に紹介することで理解を深め、アーティストの認知と地位向上をめざしている。ファブの活用により少量販売も可能に。

## 「MADE BY BRAD」(Brad Fremmerlid +Mark Fremmerlid)

障害者とその親の新しいビジネスモデルとしての革新性が評価されました。



<http://www.madebybrad.com/>

カナダ・アルバータ州での個人の取り組み。自閉症でうまく言葉が話せないブラッドは、複雑な図面を瞬時に理解する能力をもっている。MADE BY BRAD のサービスは、彼が社会の一員として役割を果たせるよう父親が考案・設立。家具・製品の組み立てに困っている個人や企業に対して代行サービスを提供する。